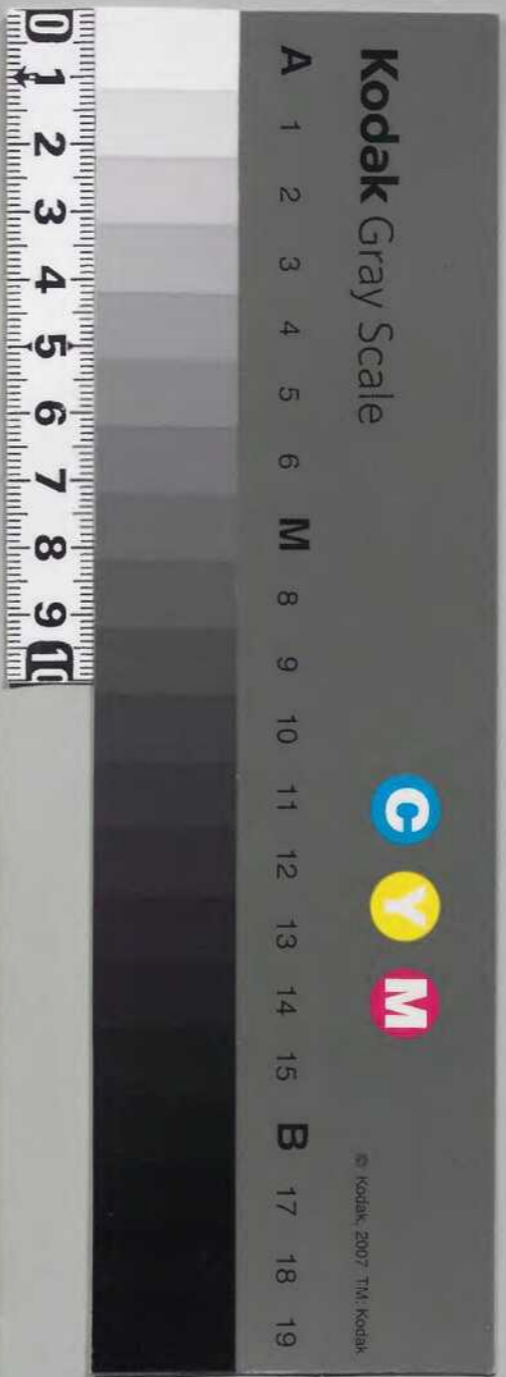


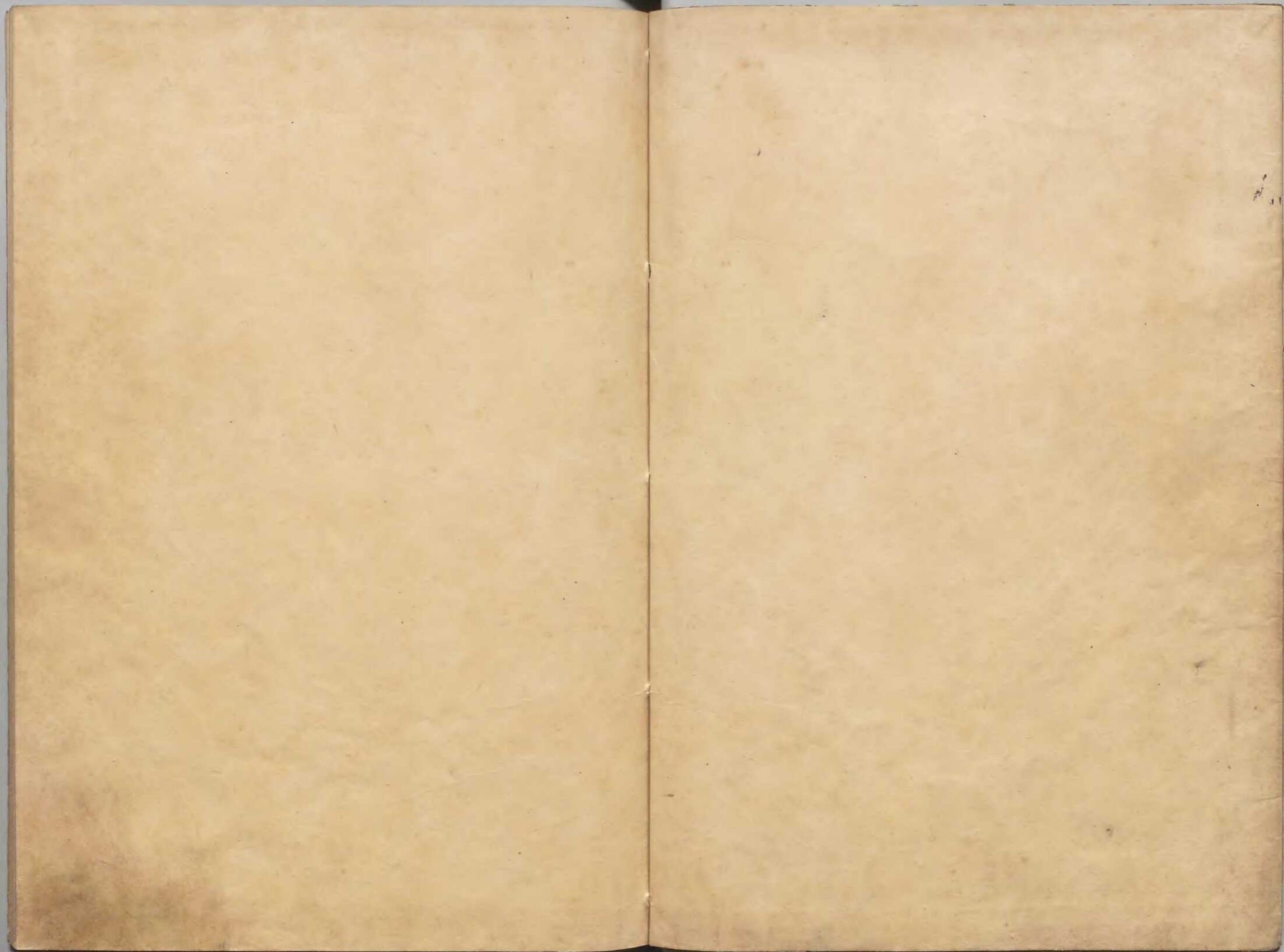
寛永諸家譜

支流 藤原氏 癸卯五冊之内九

122

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (122)
函號	76 1





秋元 浅井 岩間 木内 秋麻

佐摺 清水 高林 岩佐

酒英 岩瀬 速水 坂尾

寛永諸家系圖傳

藤原氏

支流

秋元

癸九

● 元景

越中守

淺草文庫

長朝 ちやうしやう

越中守

文禄元年 ぶんろくげんねん 浅野彈正の弼長政が披露 あさののりまさのむねながさだのひろう

よりにて長朝 ちやうしやう 泰朝 たいしやう お好 おこのみ しく

東照大権現 とうしやうだいこんげん 御 ご 許 ゆるし 湯 ゆ 々 々

泰朝 たいしやう

但馬守 たにまのり

文禄元年 ぶんろくげんねん

大権現 だいこんげん 御 ご 許 ゆるし 湯 ゆ 々 々

長 ちやう 朝 しやう 御 ご 許 ゆるし 湯 ゆ 々 々

右大臣 みぎのちみん

將軍家 しやうぐんけ 御 ご 許 ゆるし 湯 ゆ 々 々

富朝 とみしやう

越中守

五歳の御 いつしやうさいのり

大権現を御一そくまつるは

台徳院殿

將軍家より法子ま川か

寛永十一年十二月晦日つひり法五位下ふ

叙し

光朝みつとも

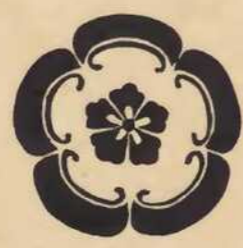
隼人はやと正ただ

お守家より法子つひりま川か

寛永十五年十二月晦日つひり法五位下ふ

叙し

家紋





● 志忠

作楷

甚吾忠尉

生國冬河

廣忠御りはくまほ

東照大権現りつるまらふ

志忠く射ゆりや起く

大権現の清前り侍りたりて射法と

高野より遠く

吉久

甚き射

生國回

大指現より修へてそまつに教度の清
陣より修へて
元龜元年江別婦川合戦におおく
羽倉が群衆となす作酒守正信也
挑戦こにおおく正信死なさん

見ゆれとき吉久羽倉共と射し
よこれよりして正信軍と全し
ありそく

同三年三方原の戦場よりおおく
吉久く射りよりして一方此國と

なりて首級を得たり
天正三年長篠合戦のとき武田が馬
頭が共とあひし味方討死おほ
ゆんをこにおおく吉久と安部

四郎景時とあひまゝ一敵と射ふるは
少一り味方此軍と今一して志
つるもよめ

日七年 渡河田中合戦のとき大
井川よりおわく味方おほく
討まんをせし時大久保七郎右衛門
家人黒野ら助鉄炮とつらむ久
勢とら妙らひひうゆかゆり
味方一志のぞく事とら

日十二年 長久寺合戦のとき首
級を得たり

長久寺五年 関原陣乃とらより
名護院殿より討つてまつる

日八年 作よりして清ら頼と
なふ

日十年

名護院殿 清入海將軍 室下の
命ありて頼とよのく家の紋を

書ありて指在久が家の紋丸の内
り二星なり此所涉紋り似る
ゆり 作と明うゆり三星とあ
らゝあ六星と好と則涉入洛乃
修身とほむ
伏見りおわく五十九歳して
死と 法名善学

旨次

甚興清村 生園同前

享長三年

名述院殿り清くしてたまふ

同十八年井伊掃部頭忠孝が担り

居り伏見りありく 涉城を

了

同十九年伏見り在葛

元和元年牧野内通頭伝成が担り

列り大坂涉陣り供をりく

首級をゆるす

同四年

右徳院殿の鉤命入りよりして大藁の紐
頭と好む

寛永元年より

將軍家入りは之とてまつる

同十年金邑五百石と加へ給ふ

吉勝

義左衛門尉

生國回前

享長三年

右徳院殿入りは之とてまつる

同十八年渡邊山城守が紐と好りて

伏見入りとむじき湯毒とつとむ

同十九年伏見入り立藁と

元和元年大坂陣入り牧野伝

成が紐入り了多のて供奉

同五年

右徳院殿の 作入りよりして大藁の

但頭とあり 後江 沙城 妻とつとむ
そめら 後江 大納言 志長 卿り
厨せらば

寛永十一年より

將軍家り けつてそまつる

台政

源右支 生國 同お

寛永十四年

右 徳院 教りつてそまつる 大

坂あきの 沙陣り 修等 首級と
得ら

寛永元年

將軍家り つつそまつる

同九年 作りよりそ大 妻の 組

頭とあり

同十年 食色とくけつそまつる

吉春

七尾島村 生國氏苑

寛永十二年

將軍家より 津湯つゆ 同十四年より

はくしそまつふ

吉原

二尾島村 生國後河

寛永十八年七月朔日

將軍家より 稀福ひふく 大沙番とて

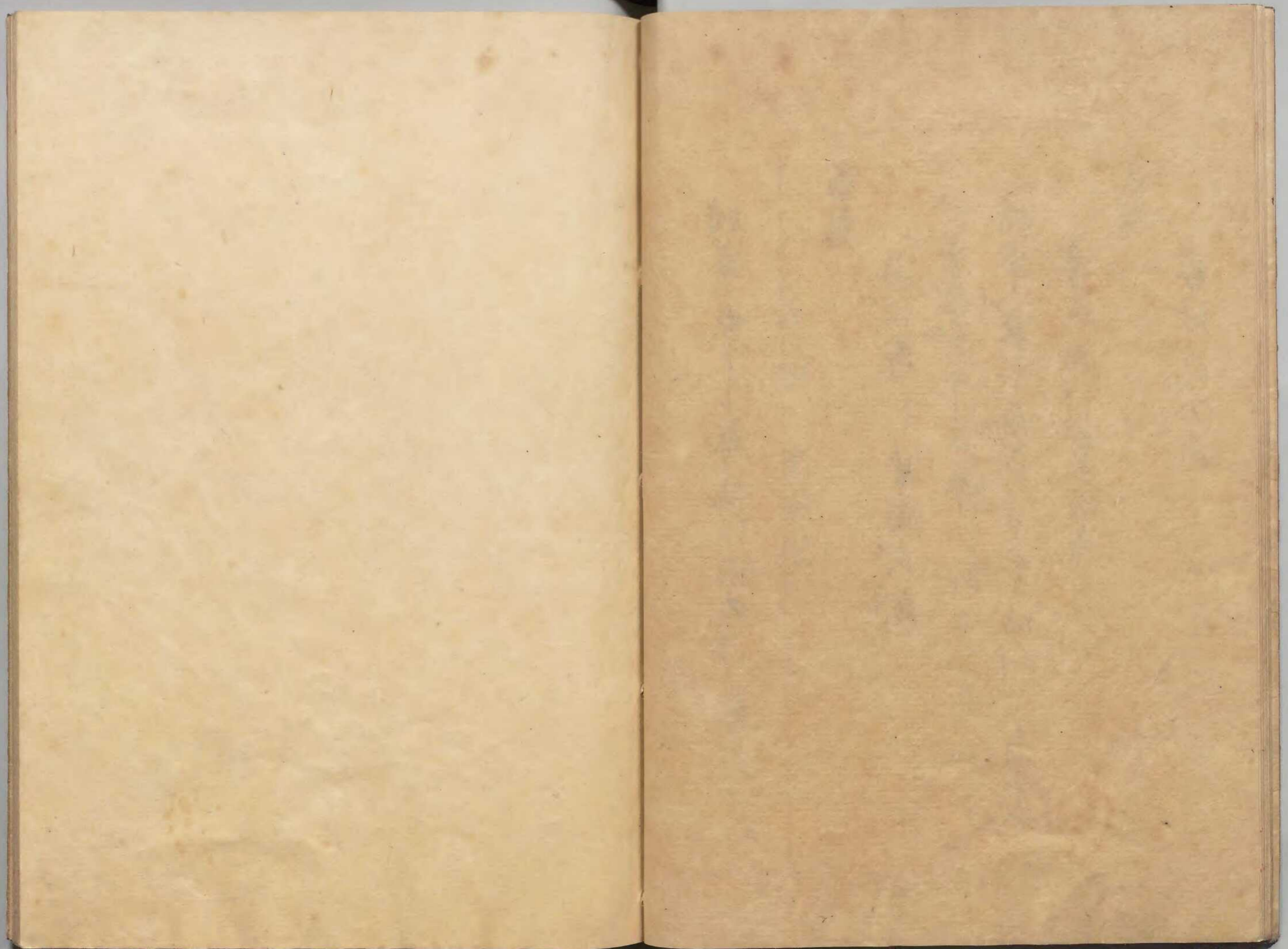
吉茂

甚三郎 生國氏苑

寛永十二年

將軍家とあり 予を津湯より同十四年よりはくしそまつふ

家紋丸の内より六星



渥美

友勝

左郎若菜尉

生國伊勢

十七歳のとき塙別よりおめく
人を殺害するの好入り尾別
いり織田信長より侍子

東照大権現しし尾別より侍子

時友勝信長の命より守
護し奉りてまはる此の
大権現冬州の命を海ひく
後免さしとくまはる
冬州一揆始のとき軍志あり此
少り感書たしびの命色と
慶長二年六月二日江戸の
死と歳七十一は名立歳

友重

久世藩村 生國冬江
くせの藩村ら御信康より
まはるのれく

大権現より信之をまつか
まはる十年明智日向守亮秀信長を
戦と信時

大権現泉州より冬州より

勝よあつは郎は色も二人命を
うなようにあらく教無競来り
味言引ちりたぐ内友主兄才敵
也形平岩親吉淺野彈正少弼長
政友主の勇と越一く秀吉より若
まは淺野も敵とちりく
大権現よりまこ一のりはよ
らん事とこみくそまのりあ付作
りけ新門徒追殺の輩をのりやも

おの一人のあは制法を
まげんや志く春江守秀康よ
けよ一なりありおね
て友主秀康卿より川よ
まのり
享長五年長尾系勝征伐の内
秀康卿より志くひ多加岩たを
也おれく下野五人回原に陣す
同十二年秀康卿率一好ひく

のら友主池田三右衛門尉輝政の属
せんともなるるなり安海尉の
守主伝

右徳院殿より
幕下は清く了そま

とんこに抄入り池田氏に湯せ
同十九年大坂陣のとき
りおわく本多佐渡守正信對
守主伝友主とまのま

右徳院殿とあり
越前の冬議忠直本多正信佐久間

備前守なりびよ大膳亮を看石見守
をよりく老中入りつちく友主
をよ本多正信安海主伝以有と

右徳院殿より
十二月冬議忠直入り属と

元和元年大坂無礼のとき五月方
茶磨山よりおわく首を得る

友之

右郎八 生國回前

寛永十一年

將軍家より決之にそらるる

政勝

九郎無邊射

生國寺に

元和元年二條の河城よりおわく

右徳院殿を清くそとくまの里大坂

清陣の情をいとし

同四年

將軍家よりけしつり食禄を

そとせしり清書院書として

同十二年赤地をそとせしり清

馬とあけり

某 それぞ

求助 もとすけ

武則 ぶに

江戸 えど
の生 のせい

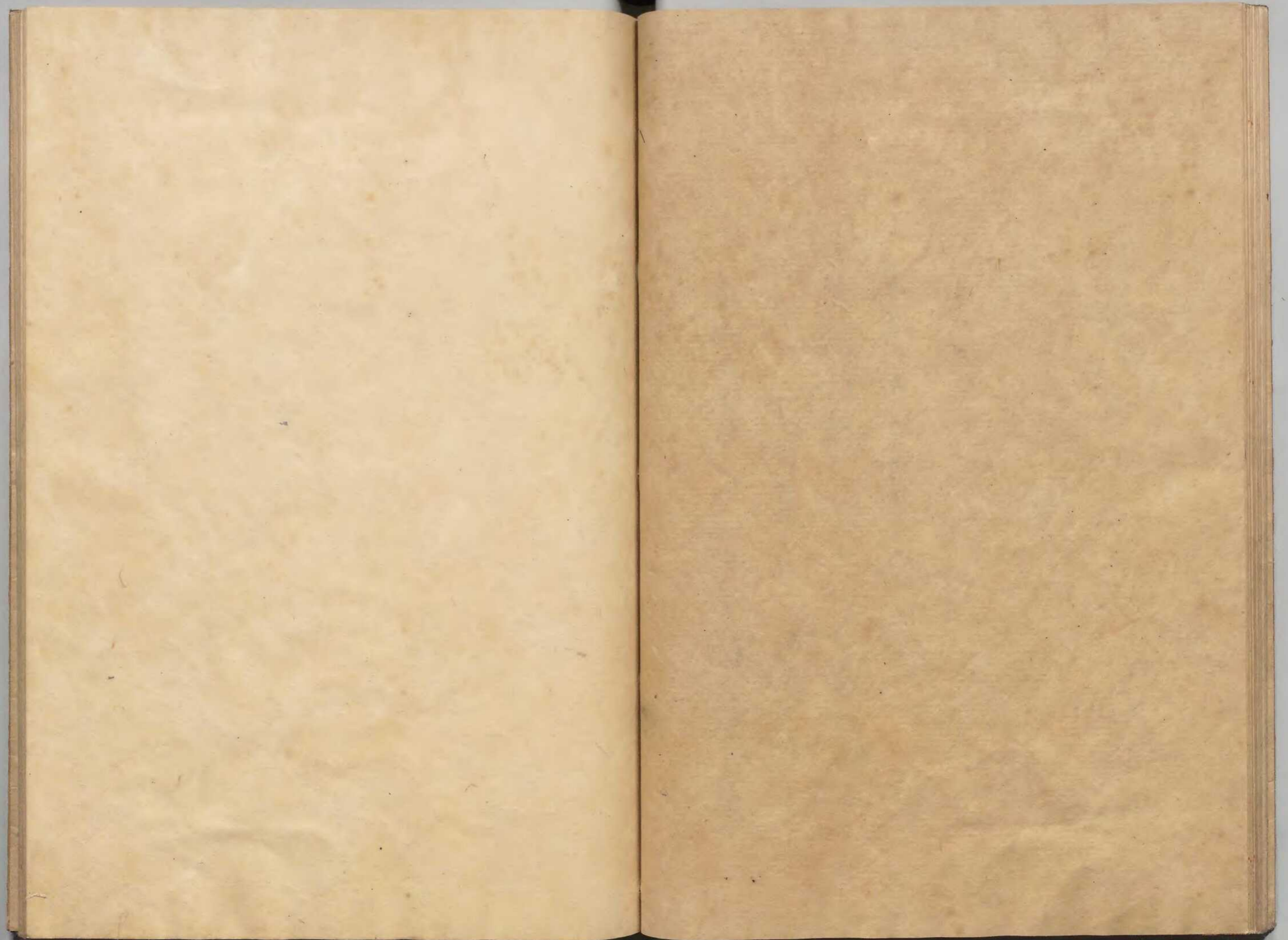
家紋

扇 あふぎのま

● 某

源 義

又 在 奥 村
 冬 別 居 濟 一 生 侍
 廣 忠 郷 一 川 之 命 一 色 川 之 村 年
 源 十 郎 一 属 也



● 元重

浅井

道之物

傳稱

家

生國冬河

清原君以来累代

家一傳之了々々々々

清高

重忠

道之助

生國同前

廣忠郷より侍ふ

忠次

道之助

後平家郷村と号し生國同前

治承三年より長崎三郎位原主より侍ふ

元龜三年

元忠

平右衛門尉

生國同前

長五年

大権現より侍ふ

東照大権現の侍を三万原の陣

おのゝく矢面よりむろく言名と

文禄元年四十二歳より病死

法名道春

白徳院殿

將軍家よりはるるそまひる

二本

次右邊の村

生田茂苑

忠次が書置子やなる実者三浦清藤

射の次が子あり

元和五年

將軍家よりはるるそまひる

智忠

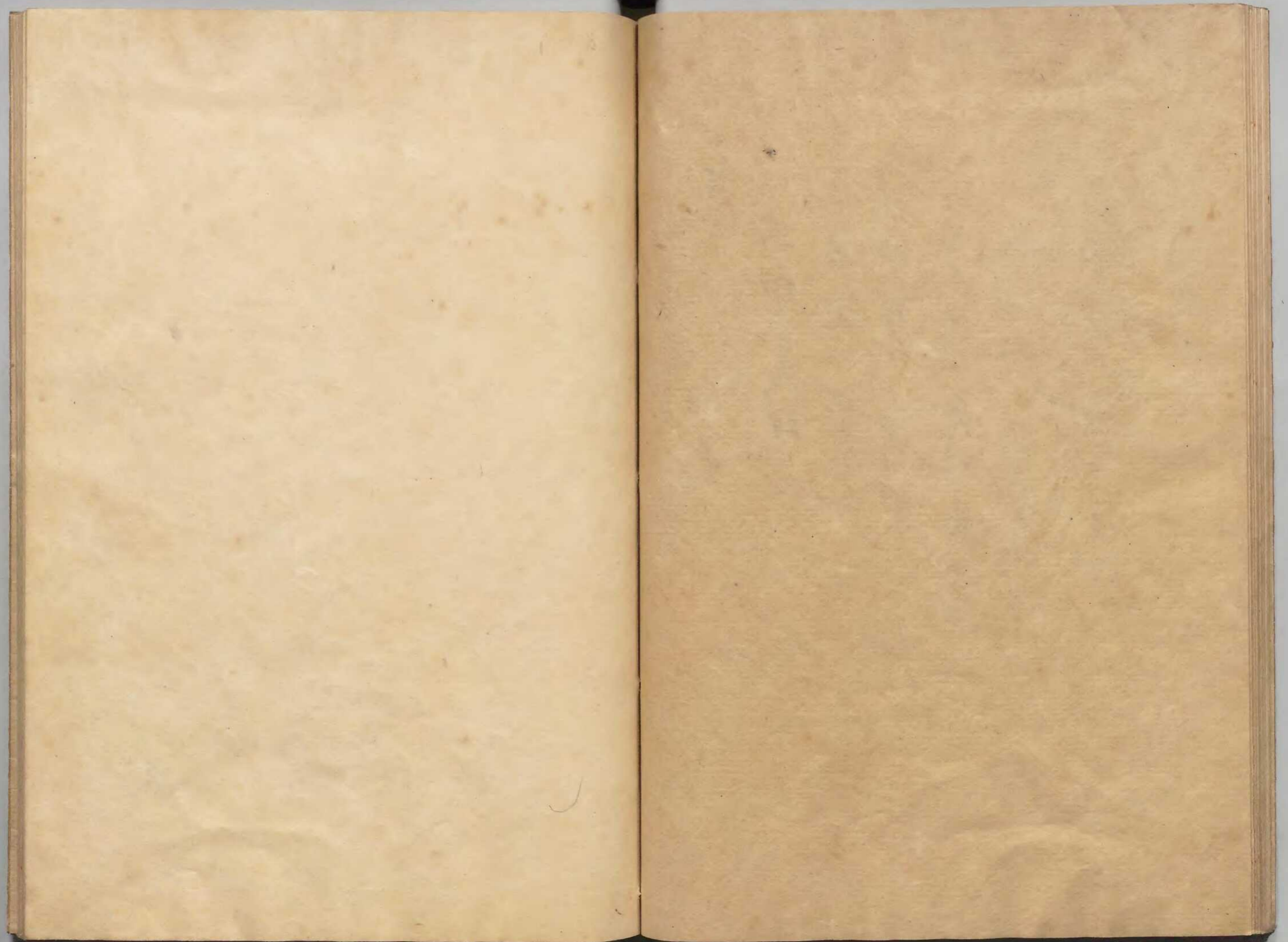
一郎た忠の村

寛永九年より

將軍家よりはるるそまひる

同十四年大津藩と川とむ

家紋丸の内月小根藤



浅井あさい

● 元近もとちか

九郎くわらう 康やす 村むら

生國なまくに 春河はるがわ

くく ーー めめ 廣忠ひろちゆう 郷きょう ーー 津つ 子こ 寺てら

甲か のの ちち らら

東照とうてう 大だい 権現こんげん

古こ 徳院とくゐん 殿でん ーー 法ほふ 了りゆう 寺てら 山やま 石いし

慶長九年八月十六日（一）死（二）

元貞（一）

九郎左衛門尉 生國同前

大掾

右衛門尉（一） 法名（二） 定立

寛永二年正月八日七十歳（一） 死（二）

法名定立（一）

元成（一）

半左衛門尉 生國同前

大掾

右衛門尉

將軍家（一） 勤仕（二） 子（三）

元詮（一）

木工助 生國同前

寛永五年

將軍家より侍へりてまじり

元吉

七年

生國冬河

大権現

右徳院殿よりつゝりてりる

元和八年十二月十四日四十歳

志く死を法名松意

元信

九郎左衛門尉

生國冬河

寛永二年

將軍家より侍へりてまじり

元正

七年

生國冬河

右徳院殿より侍へりてりる

右が領地千五百石とつゝりてりる

をりてりる

將軍家より侍之りてその家
寛永十一年二月に死に歳十八
法名定樹

元久

七年 生國回前

寛永二年

右徳院殿小法之りてその家より父の地
千五百石をわたりて其の地をた

まよそのり

將軍家より殊賜し其の地をた

同十二年六月川小姓組の番より

なり

家故 丸内小根藤



清水しみず

● 家次いへつぎ

檀之助だんのすけ

清名之清しみずのしみず

政吉まさきち

檀之助だんのすけ

家次の養子也いへつぎのやしなひなり実父田之助まごちちなり

忠次が二男なり 六十歳より死す 法名浄源

政利

檀越物

政利の養子とす 實は田之助貞吉の
嫡男母は政利のしとすなり

寛永九年四月

右徳院殿とあり 寺々く由りる

同十六年八月二日二十八歳より

死す 法名浄源

吉春

檀越物

生國武彦

政利の養子とす 實は田之助貞吉の
三男母はしとすなり

寛永十二年正月

將軍家と詳し 寺々く由りる

同十七年九月朔命とす けし由り

清水の家督とほぐ

家紋下藤こりみち

● 氏後

岩瀬

治部

春別半座の生

東照大権現より治之より
天正三年長藤よりおわく討死

氏定

雅示助

大権現は法之をまゝにす

寺川王龍乃川上りおわく

討死

氏則

清助

のら掃部と号す

氏典

清助

のら吉原村と号す

大権現

台徳院殿より法之をまゝにす

大権現より法之をまゝにす

天正四年言を神よりおわく首

五とゆふり

氏次

清物

のらむ志村と号す

旨徳院殿よりけしなり

氏忠

市井

旨徳院殿よりけしなり

元和九年正月三日清小姓組より

列して仲為とす

同年十二月二十五日稻米と給す

なり

將軍家より三人なりて清書院殿

をけしむ

寛永十年二月常陸國麻呂郡

青堀村角折村より廿六石

の食邑と給す

氏勝うぢかつ

清物

羽軍家より汗之しそまらる

幕まゝ紋のん丸ま田のり之のり本ん杓しやく

岩間

正勝

招監

武田信玄

生國甲斐

頼り

正時

勘定奉行

生國同前

信玄 しんげん と しんげん 頼朝 たのちゆう 父子

天正十年甲州没落の後

東照大権現より法久とそまらふ

長五平実原陣のとき

台徳院殿より法久とそまらふ

元和八年五十歳よりて死す

正次

九郎左衛門尉

生國武苑

寛永十一年

大権現より法久とそまらふ

大坂お度清陣のとき高木主水正

組より属し侍奉す

元和九年駿府清城事として

命をうけ奉り後

河大細玄忠長より属す

寛永十一年より

將軍家より法久とそまらふ

同十七年四十七歳ニ一七歳ニ

台次トク

勘吉ノ清射 生國ノ甲斐ノ

至長十九年十一月十八日

台徳院殿ノ一ノ孫ノ瑞ノ

元和四年十二月二十九日

將軍家ノ一ノ瑞ノ一ノ子ノ一ノ子ノ

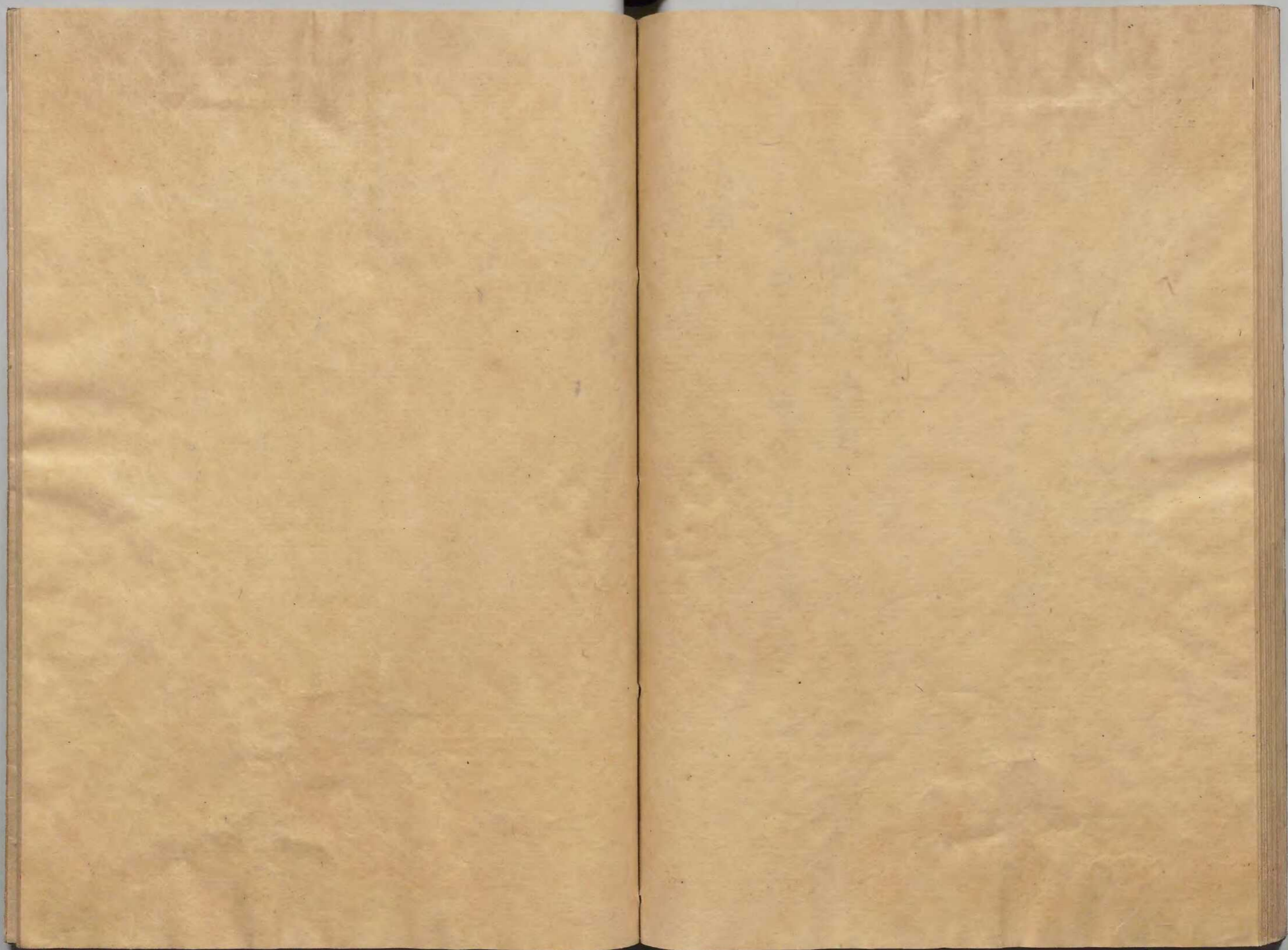
正成ノ

一郎ノ長ノ村 生國ノ氏ノ茂ノ

寛永三年

將軍家ノ一ノ瑞ノ一ノ子ノ

家紋ノ鑄ノ夫ノ



高林 たかしや

●
長久 ちがゆ

与太兵衛尉

江別小若下生於

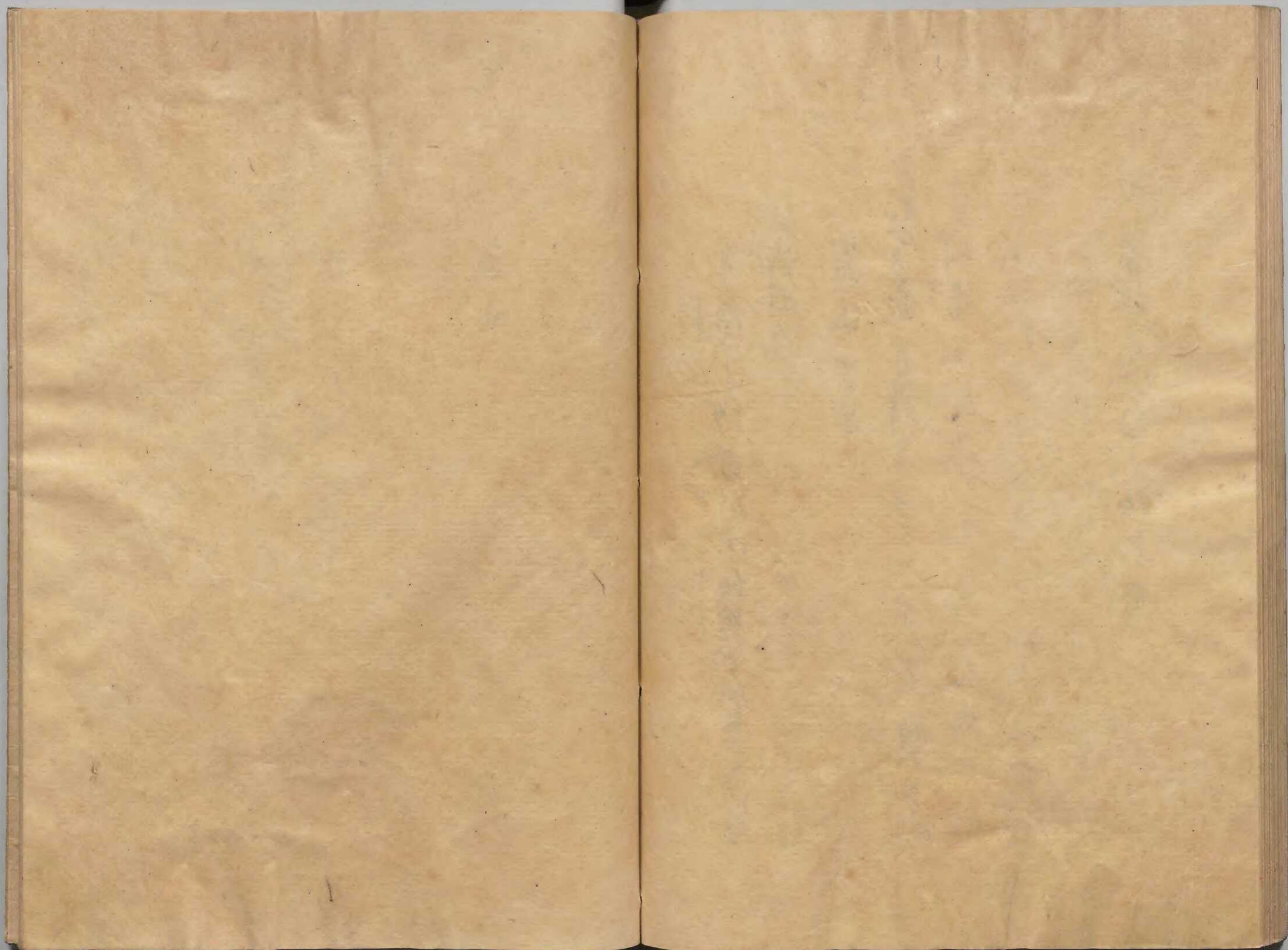
浅井御前守 あさいのみでんのりき

法之と志成く

銭切あり

寛永十四年六十六歳山一と病 しやま

死す 法名宗林 しやうみやうしゆん



速水はやみ

● 某

梯部はしべ 生國近江なまくにえ
織田信長おだのぶなが 行住ゆきぢゆう

吉成よしか

七右衛門尉

生國同お

右徳院殿より侍之る

百忠

七条中尉

生國下総

右徳院殿

將軍家より侍之る

書とほむ

家紋丸の内より侍

本内 ほんうち

● 著者 しやくしや

志在集 しざいしゆ

生國信 しやうこくしん

芦田修理 あしたのしゆり 右支子 みぎしよ 氏 うぢ

蕃正 ばんせい

忠在集 しづざいしゆ

生國信 しやうこくしん

芦田有妻大吏より法子

享正十年

東照大権現甲州新府一沖出馬の

とこ位所山小屋よりありく所と一

し受むる相をくつひ疵とくち

軍切とくけまはるくゆく実原清

陣のくち

大権現よりめおは速志とくち

大坂有方の清陣り色法をくち

とむそのくち

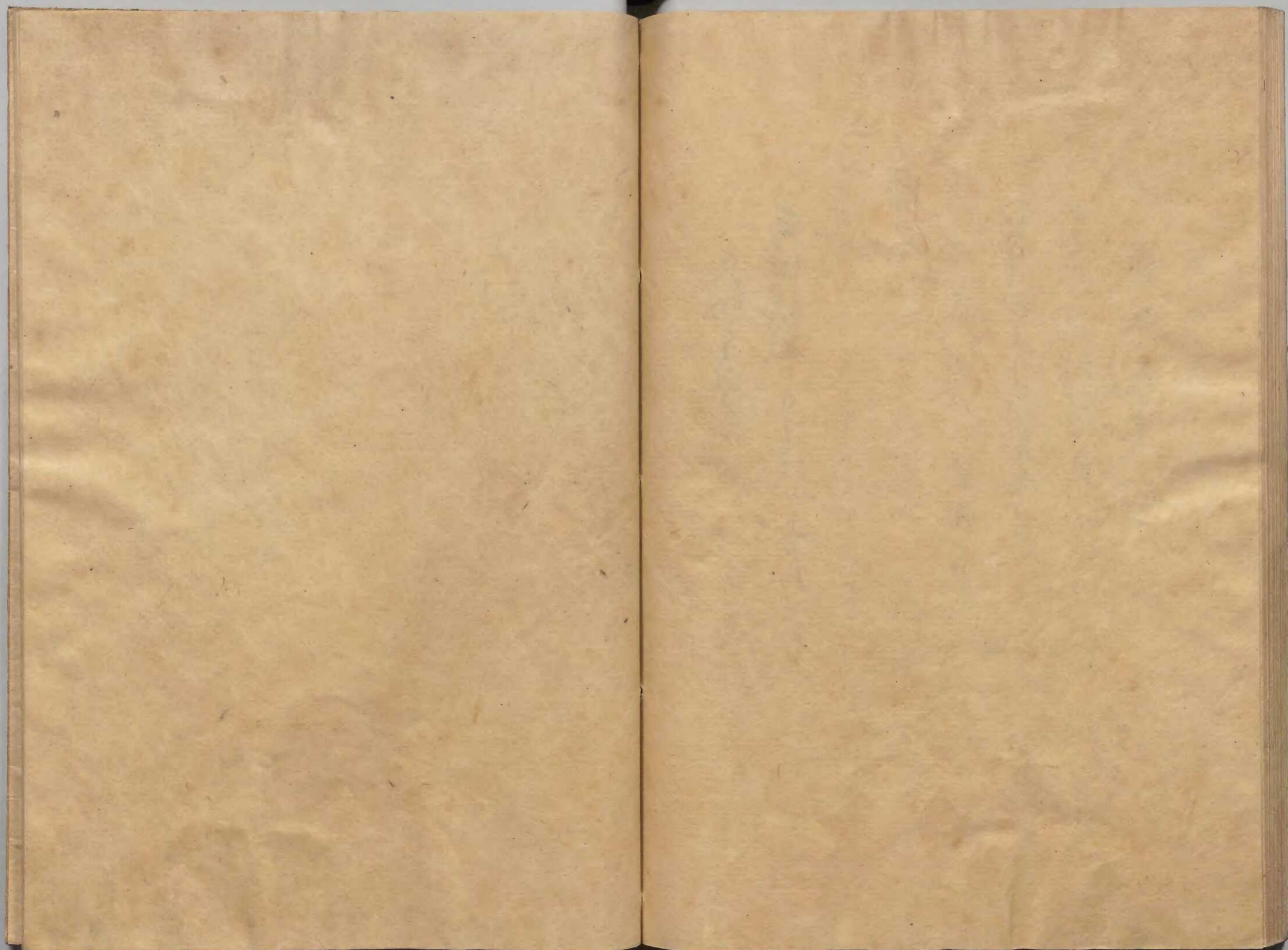
古法院殿より法子とくち

善久

忠直奉射 生國同家

將軍家より法子とくち

家紋 龜甲



● 某 モト

岩作 いし
本名 ほんな 兜那 たてな 少 すく 祿 ろく 也 なり

勝 かつ 彦 ひこ 母 はは
今川 いまがわ 氏 うぢ 真 まこと 子 こ
生 なま 國 くに 駿 すま 河 が

某

吉助

生國同家

東照大権現より法之了をせりて

原陣并大坂西方の陣

法を以て

吉徳院殿より法之了をせりて水野

浦将軍より法之了をせりて大津藩を

法之了

寛永二年の事

吉勝

金尾村

吉徳院殿

將軍家より法之了をせりて

皆川山城守より法之了をせりて大坂の西

陣を以て

寛永十一年五月方大坂より

病死

吉正

嘉三郎

生田橋津

將軍家より決りしそりり

家紋 傘

次
者

坂尾

官
官

生
國

文
部

長
子

次改

五郎左衛門尉

生國尾張

文治寺郎の猶りは子

寛永十七年十月冒尾別おしり、おあそ

死し、はな永とん登

次忠

八左衛門尉

生國尾前

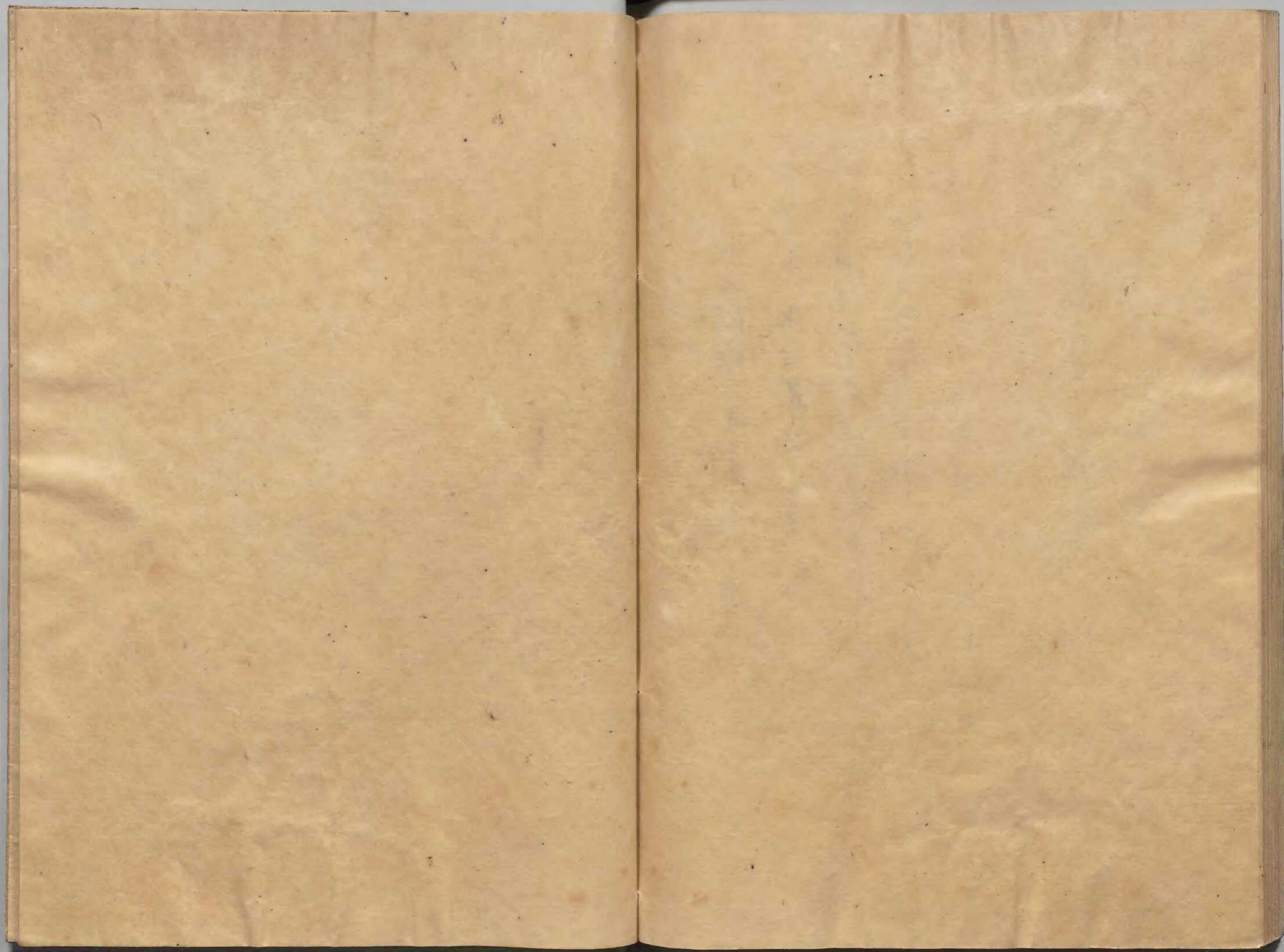
池田いけだ中守ちゆうしゆうりは子

寛永七年めさきく

右近衛殿みぎのけりは子はこらりは

右近衛殿みぎのけりは子はこらりは

家改月つき流なが報ひらき



秋麻あきあし

朝あさ延のび

灰馬あしうま助すけ

生國なまくに遠とほ江え

法しほ名な常とこ泉いづみ

直ちか朝あさ

孫まご右みぎ郎らう

生國なまくに同どうおお法しほ名な源げん心しん

朝正

長考清射

生國同前

伯父清井鳳考考の養子也取の

石考考美子とゆふとゆふり

清井とゆふとゆふとゆふとゆふと

考考

考考長元年

台法院殿より法之

元和五年 命と受けゆり法

代官職をゆふ

寛永十年

將軍家より法之

ゆふ

家級 角此内也

